

# 近江の青の洞門 『西野水道』

主任主査（河川工学）  
野崎 信宏



県指定史跡『西野水道』は琵琶湖の北、賤ヶ岳山系西野山の麓にある岩穴です。近江の「青の洞門」とも呼ばれています。今から約160年前、度重なる水害を被ってきた西野村が、充滿寺の住職「恵莊」の指導のもと一致団結して、排水用のトンネルを掘り抜いたものです。機械のない当時では人の力で掘るしかありませんでした。堅い岩盤に苦しめられ、呼び寄せた石工が帰ってしまうこともありましたが、弘化2年（1845）9月、5年あまりの歳月をかけてようやく完成しました。

日本の土木遺産の多くは近代化が始まった明治期以



西野水道の入口

降に築造されたものですが、『西野水道』は江戸時代末期のもので、なにより特筆すべきことは、この一大土木事業が封建体制下ではまれな民間主導により成し遂げられたことでしょう。

その後、昭和25年（1950）と55年（1980）に、余呉川放水路として2本のトンネルが完成し、現在に至っています。つい最近まで人びとが水害をふせぐために努力したその象徴を今も3つ並んで見ることができます。



西野水道の内部

西野水道はしばらく立入禁止となっていました。平成14年5月より中へ入ることができるようになりました。荒々しくけずられた岩はだを見ると、当時の人びとの苦勞とそれに負けない気迫が感じられます。



私は、長年滋賀県内の琵琶湖の中から県境の山まで植物の自然分布を調べるために歩きまわり、植物を採集して永久保存できる標本（さく葉標本）を多数つくって、そのすべてを琵琶湖博物館に収めました。これらの標本を整理した結果、県内にシダ以上の高等植物の種類がどれくらいあり、どこに分布しているのかについて、「滋賀県植物誌」などの先人の記録に膨大な量の新しい情報を加えつつあります。滋賀県は、気象・地質条件が

多様で、動植物相の豊かな美しい自然が見られますが、人間の生活の営みの拡大によって自然環境の破壊が進んでいます。以前にあった植物で環境の変化のため、姿を消したものがたくさん出てきました。過去からの植物の自然分布の記録と絶滅危惧植物の保存、種の多様性に富んだ植生を残すために、今後植物研究会や植物好きの人たちと山野を歩きたいと思っています。分布の情報の提供をお願いします。

## 歩いて集めた滋賀の植物標本

琵琶湖博物館 共同研究者 村 瀬 忠 義

## 交流ノート

琵琶湖博物館の1階にはいくつかの無料ゾーンがあることは意外と知られていません。今日はその一つ「図書室」での来館者との交流について司書さんにうかがいました。

ここの図書室の一番の特色は何でしょうか？

それは図書室の一角に「質問コーナー」を設けていることです。館長も含めて各学芸員が毎日交代で皆さんの質問にお答えしています。私たちも資料さがしなど、学芸員と一緒に奮闘しているんですよ。

今までの質問でユニークなものを見せて下さい。



質問コーナー



学習コーナー

生き物についての質問が多いのですが、ある時お客様が傷ついた小鳥をお持ちになって、傷の手当てやエサについての質問を受けたことがありました。博物館の図書室ならではの質問でしたが、まさか司書をしていて「生もの」を扱うことになるとは夢にも思いませんでした。

図書室利用のおすすめはありますか？

博物館が広いこともあり、



児童書コーナー

ちょっと座って休憩される方も多いそうですね。小さな子供連れのご家族でも充分ご利用いただけます。絵本や児童書、調べ学習にも役立つ参考図書もたくさんありますよ。博物館での展示を見た後、もう一度本で楽しんでください。

専門的な利用も可能なのでしょうか？

図書の貸し出しは行っていないませんが、約45,000点の図書についてはインターネット

上で検索もできます。あらかじめ下調べをして来館されれば、ゆっくりと専門書も閲覧していただけます。

また、コピーも有料ですが可能です。博物館のテーマに沿って図書の収集をしていますので、特に淡水魚や湖に関する図書は充実しています。一般の図書館では見られない全国の博物館資料についてもご利用になっていただけます。



専門雑誌の棚